

分析とビジネスインテリ ジェンスで AI の力を 解放つ

Mike Leone | プリンシパル アナリスト

ENTERPRISE STRATEGY GROUP

2024 年 1 月

調査の目的

組織はデータドリブンな意思決定の重要性を認識していますが、分析を成功に導くうえで、ビジネスのペースが障害となっています。ビジネスに利用できる分散データの量は増加の一途をたどっており、データを重視するステークホルダーはその量に圧倒されています。組織が自社データの全体像を把握するのに苦労しているという状況をさらに複雑化しているのは、変化の速さです。多くの場合、ビジネスにおける変化の速さは、データの収集と分析に対応可能な速さを上回っています。この状況において、組織はビジネスの現状に基づく正確な分析情報をタイムリーに届けられるよう、救いの手を求めています。

これらの課題に対処するために、組織は AI ツールに目を向けるようになっていきます。AI ツールは、手作業のプロセスを排除して業務を効率化し、生産性を向上させるだけでなく、分析を誰もが利用できるようにします。拡張アナリティクスと生成 AI (GenAI) のどちらを使用するかを問わず、AI ツールによって、データを重視するステークホルダーがすばやく簡単に、コラボレーション指向の方法でデータにアクセスし、データを探索、可視化できるようになります。

TechTarget の Enterprise Strategy Group はこうした傾向についてより深い知見を得るために、北米 (米国とカナダ) の組織に所属する、分析およびビジネス インテリジェンス ソリューションの評価、購入、管理、構築に関与する、あるいはこれらの業務に責任を持つ 375 人のデータ / IT プロフェッショナルを対象としたアンケート調査を実施しました。

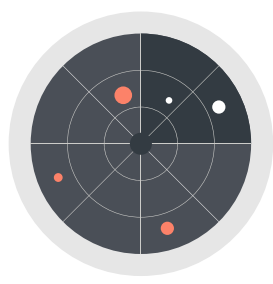
この調査の目的は次のとおりです。



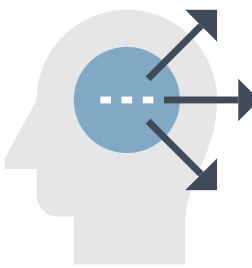
特定: AI を分析およびビジネス インテリジェンス (BI) に組み込むことによって、組織が実現しようとしているメリットを特定する



理解: 組織が自社の分析および BI プラットフォームで AI (拡張アナリティクスと生成 AI を含む) をどのように活用したいと考えているのかを理解する



発見: 分析および BI モダナイゼーション イニシアチブの開始に伴う課題と、関連するツールとテクノロジーを導入する際に直面する課題を洗い出す



判断: 分析 / BI プラットフォームの選択に関与するステークホルダーと、これらのテクノロジーへの投資と活用に向けた意欲を判断する



主な 調査結果

クリックしてフォロー



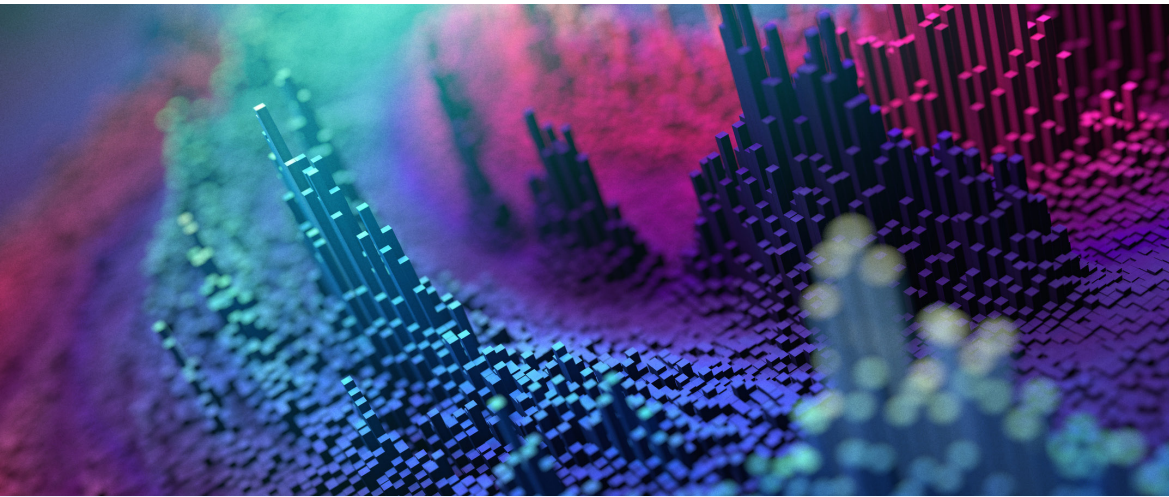
課題があるとしても、BI および分析に AI を組み込むことが優先事項となっている

4 ページ



ステークホルダーは分析および BI 全般で従業員エンゲージメントの強化を目指している

9 ページ



オーダーメイドのソリューションが投資を促し、ベンダーに対するロイヤルティを脅かしている

14 ページ



AI がデータとアナリティクスのライフサイクルに革命を起こしている一方、働き方は依然として変わっていない

19 ページ



リスクを軽減して有益性を高める必要性が増している中、生成 AI が変革をもたらしている

23 ページ



調査の手法と調査対象ユーザーの属性

27 ページ

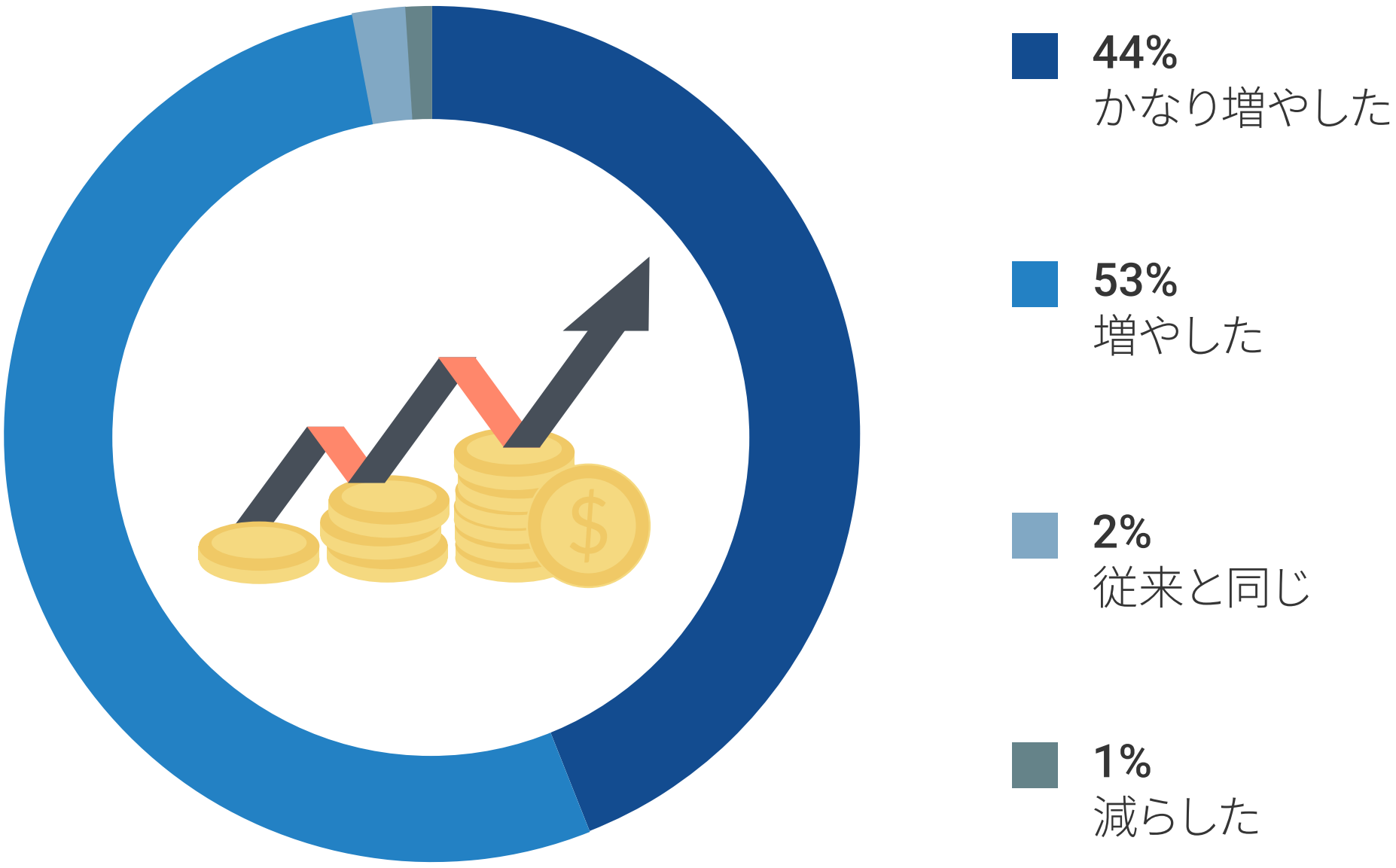
課題があるとしても、BI および分析に AI を組み込むことが優先事項となっている



分析とビジネス インテリジェンスの強化に向けた戦略的投資

この1年にわたり、ビジネス インテリジェンスと分析への投資が急増しています。実際、去年は組織の97%が分析とBIへの投資を増やしています。組織はデータを活用して競争力を獲得する重要性をますます認識するようになっていきます。企業が自社データの中に潜んでいるパターン、傾向、分析情報を明らかにして、より戦略的なデータドリブンの意思決定を行えるようにするうえで役立ってきたのはBIツールです。この先も、BIと分析への投資の増加傾向は続く見込まれます。実際、ビジネスでデータを統合、利用、分析しやすくするためのツールにより多くの予算を割り当てようと考えている組織は89%に上ります。こうした投資が行われるのは1つのツールに対してだけではなく。組織の73%が、現在少なくとも3つ以上のツールを使用しています。

分析およびビジネス インテリジェンスへの投資傾向の変化

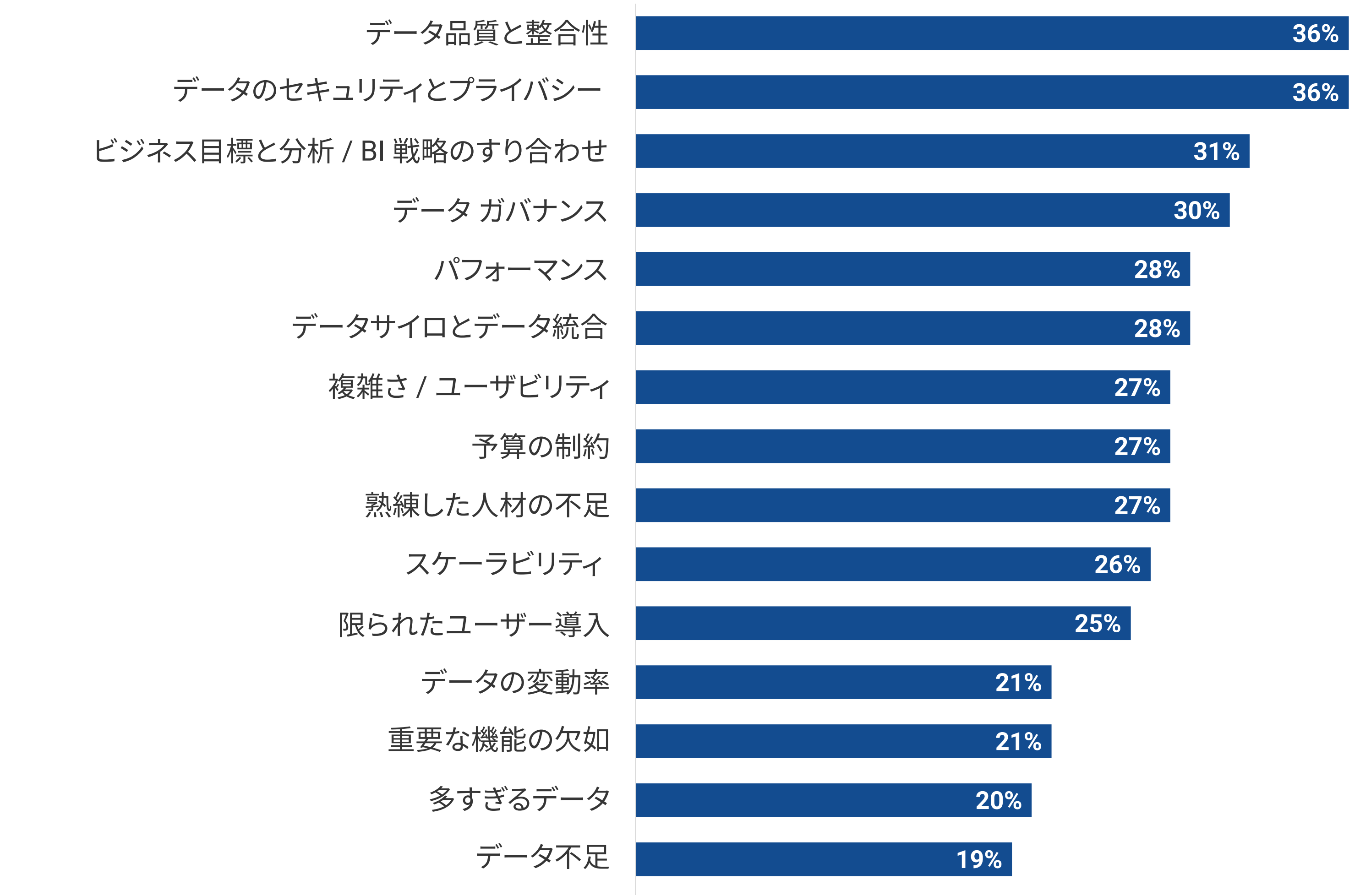


「ビジネスでデータを統合、利用、分析しやすくするためのツールにより多くの予算を割り当てようと考えている組織は 89% に上ります。」

分析と BI における主な課題として、データ品質とセキュリティがトップに浮上

ツールへの継続的な投資と注目度の高まりをよそに、相変わらずデータの品質と整合性が組織にとって課題となっています。その理由は、急速な AI テクノロジーの進化に加え、データの複雑さと量が増したことにより、不正確さのリスクが高まり、引き出された分析情報の信頼性が損なわれているためです。あいにく、セルフサービス機能を使用できるようにするだけでは、この事態は改善されません。処理するデータの膨大な量と、意図せずに機密データを公開しかねない AI アルゴリズムの複雑さが原因で、BI と分析において AI、データ セキュリティ、プライバシーを考慮することが引き続き大きな課題となっています。さらに、AI システムの相互接続がデータ侵害のリスクを増幅させていることが、高度なセキュリティ対策およびプライバシー管理の必要性を強調しています。多くの組織では、セルフサービス機能によって、より多くのステークホルダーに分析と BI を利用可能にするように努力していますが、セルフサービス分析は期待に及んでいないと回答している組織は少なくありません。しかもほとんどの組織が、セルフサービス機能では分析情報に基づいて行動するのに時間がかかりすぎると回答しています。

分析および BI プラットフォームにおける主な課題

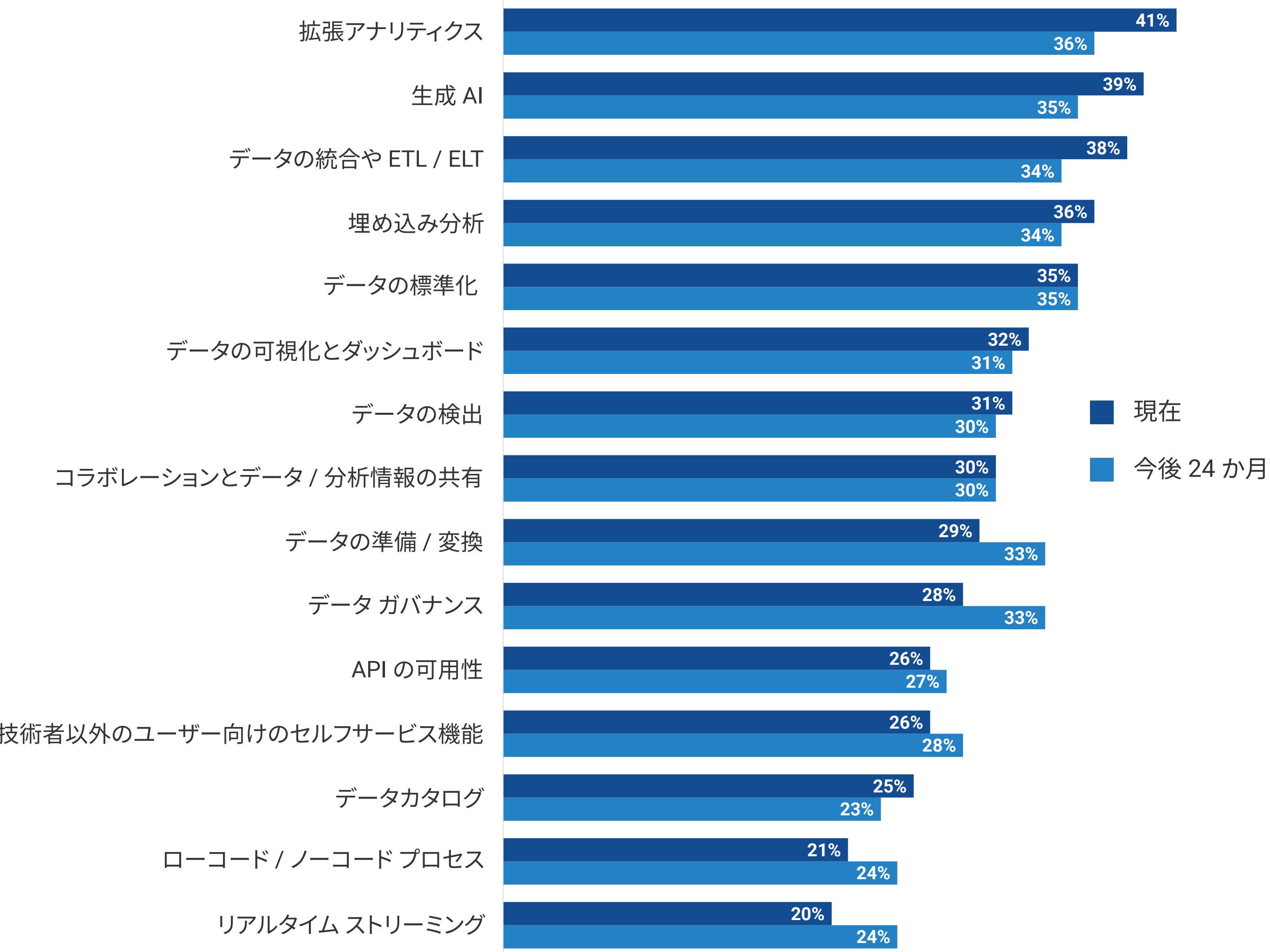


ビジネス インテリジェンスで現在使用されている / 将来使用する予定の機能として、拡張アナリティクスと GenAI がトップに

拡張アナリティクスと生成 AI が、現在および将来にわたるデータの使用方法に変化をもたらしています。組織は AI を活用して全力で分析の自動化、ダッシュボードの作成、分析情報の生成を進めており、データドリブンな意思決定により簡単かつ効率的にアクセスできるようにすることを目指しています。

注目すべき点として、今後 24 か月にわたる組織の重点分野は業種によって異なります。たとえば製造業では、コラボレーションとデータ / 分析情報の共有が最重要視される機能として挙げられています。小売業で重点が置かれているのは、データの準備 / 変換です。金融サービスでは引き続き、セルフサービス機能によって技術者以外のユーザーに対する支援を強化することが、他のどの機能よりも重要視されています。

使用中および計画中の BI 機能

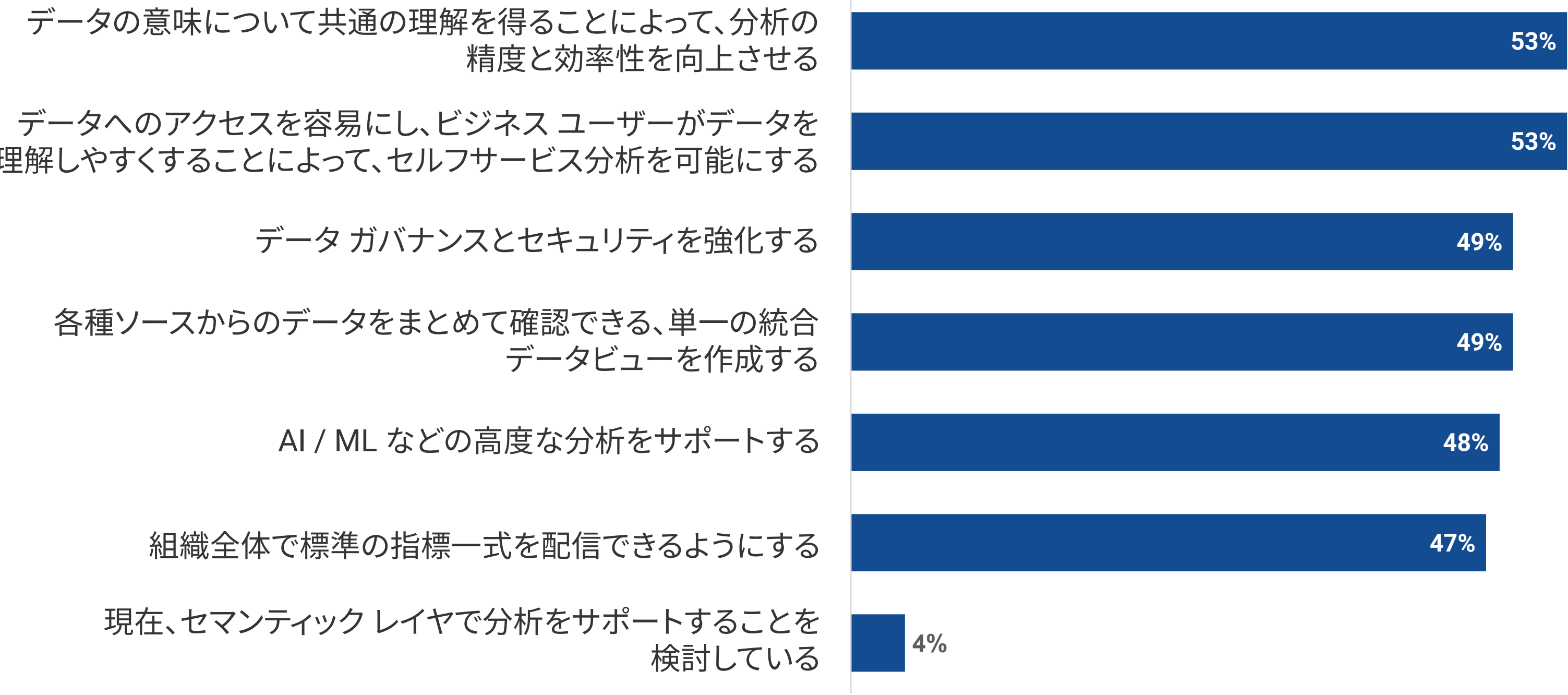


セマンティック レイヤ: BI プロセスを合理化し、データの理解を深めるために不可欠なコンポーネント

分析および BI イニシアチブに不可欠であることが明らかになっているコンポーネントの一つは、セマンティック レイヤです。各種ソースのデータを統合して構造化したビューを提供するセマンティック レイヤにより、ユーザーは専門的な技術スキルがなくても、複雑なデータセットから正確な分析情報を得ることができます。この 1 年にわたり、業界では再びセマンティック レイヤへの関心が高まり、このレイヤが重要視されるようになっていきます。セマンティック レイヤはその汎用性により、データ分析機能を最大限に活用しようと目指している組織にとって不可欠なツールです。分析のバックボーンとして機能するセマンティック レイヤが、ますます AI および ML テクノロジーと関連付けられるようになっていきます。データの精度の向上やセルフサービス分析のサポートから、データ ガバナンスとセキュリティの強化に至るまで、分析ライフサイクルにおいて、セマンティック レイヤは多面的な役割を果たします。

「分析のバックボーンとして機能するセマンティック レイヤが、ますます AI および ML テクノロジーに関連付けられるようになっていきます。」

セマンティック レイヤを使用した分析サポートの推進要因



ステークホルダー
は分析および BI
全般で従業員エン
ゲージメントの強
化を目指している

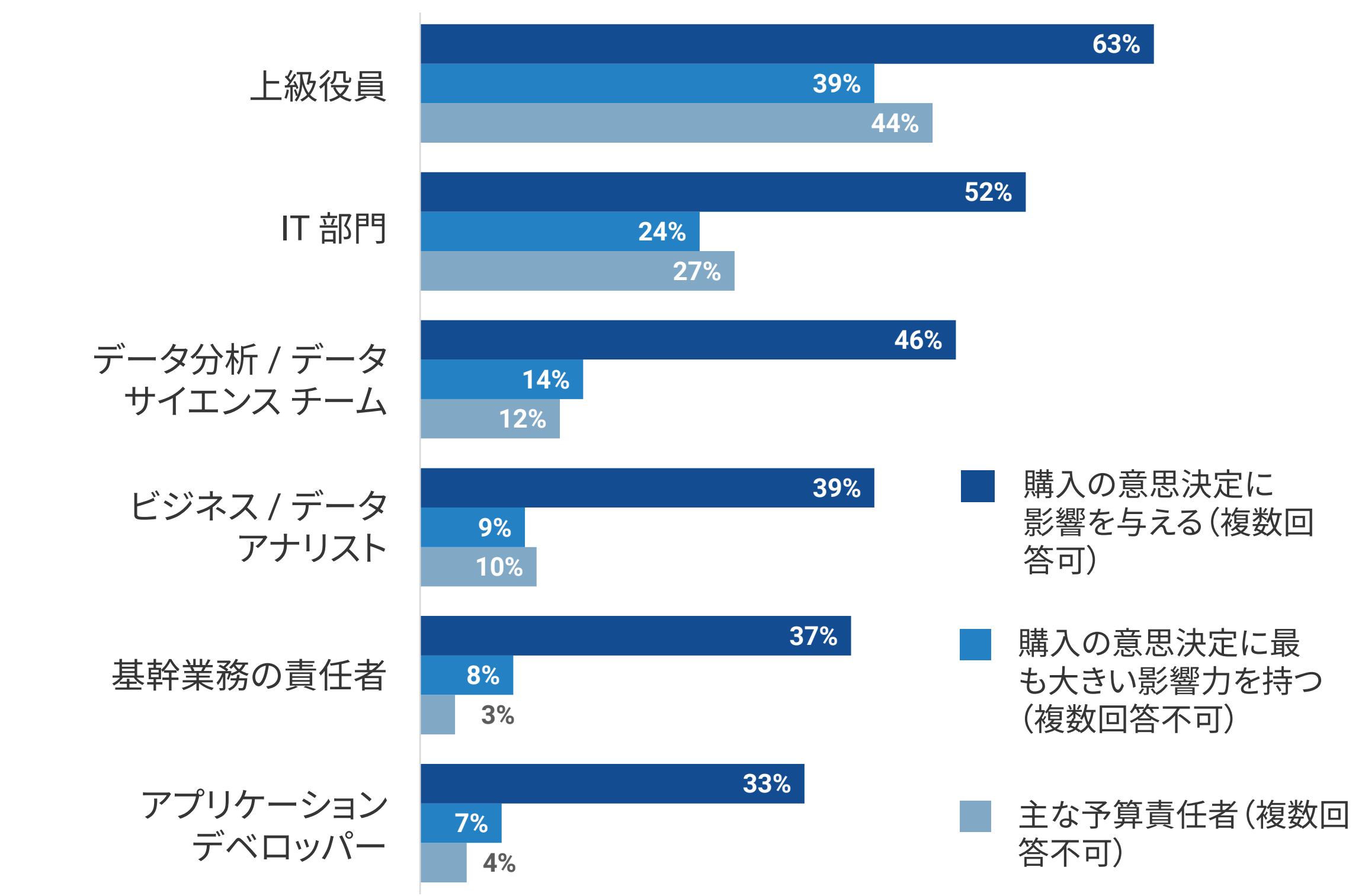


上級役員と IT 部門を中心にステークホルダーの状況をマッピングする

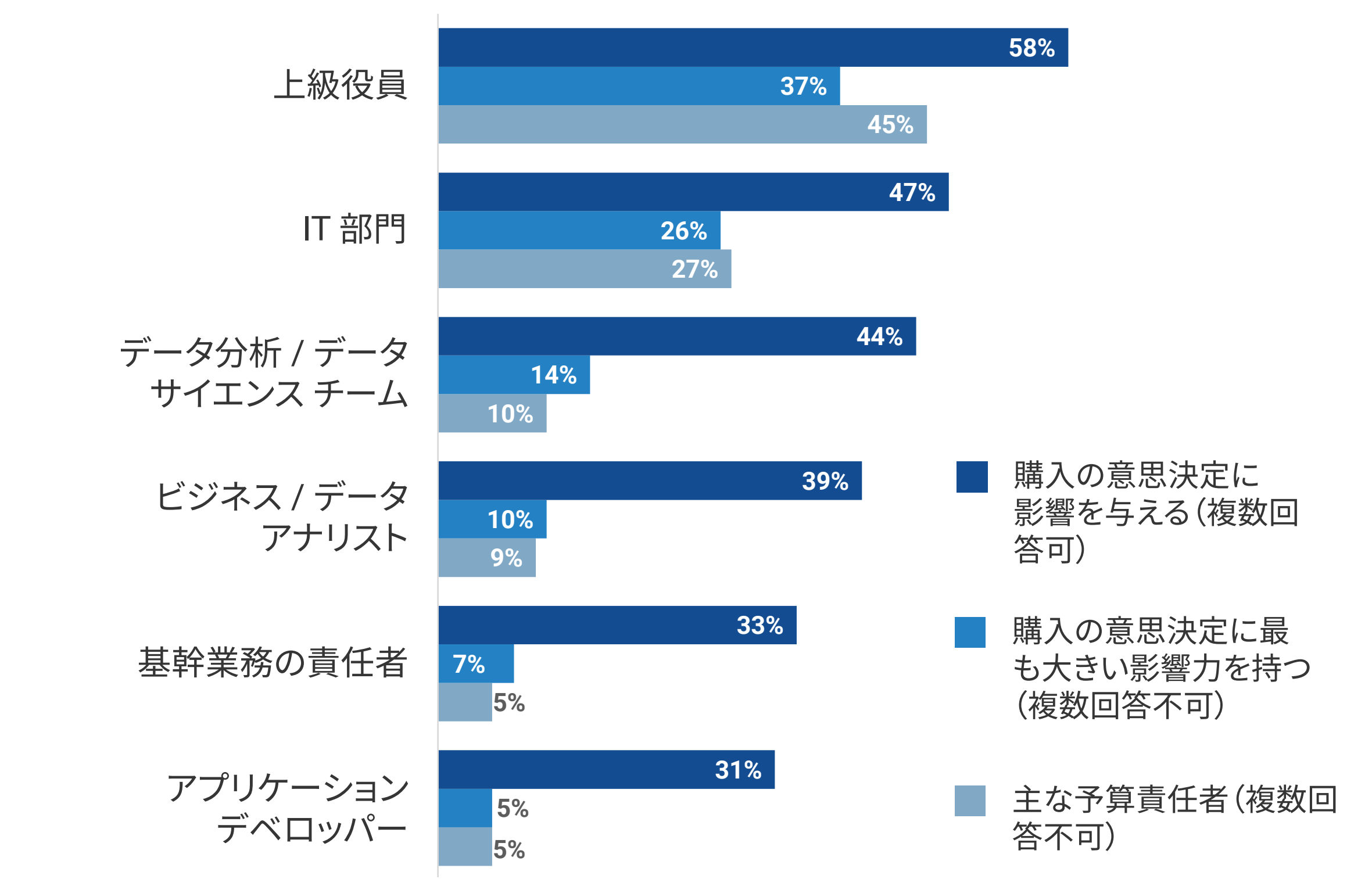
分析、ビジネス インテリジェンス、AI を活用した意思決定に関して、ステークホルダーそれぞれの影響が及ぶ範囲はかなり異なります。けれども通常は、この分野でリーダー格となるのは上級役員です。上級役員は最も影響力の大きいステークホルダー兼予算責任者として、購入の意思決定において絶大な力を行います。上級役員に次いで影響力が大きいのは、意思決定とテクノロジーの実装およびサポートにおいて重要な役割を果たす IT 部門です。

この順序が異なるシナリオは、テクノロジー業界しかありません。テクノロジー業界では、IT 部門が最も影響力の大きいステークホルダーと主な予算責任者となります。

| 分析 / BI テクノロジーを購入する際のインフルエンサーと予算責任者



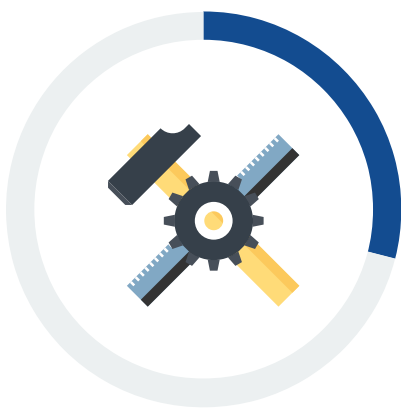
AI テクノロジーを購入する際のインフルエンサーと予算責任者



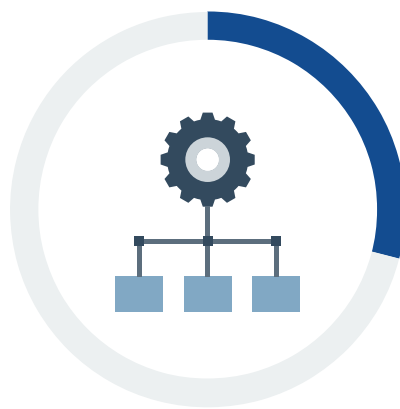
使いにくさと限られた容量が、従業員が分析 / BI プラットフォームを使用する妨げとなっている

1つの問題が他よりも特に顕著であるということはありませんが、主な3つの問題(使い慣れている他の適切なツールがある、インフラストラクチャの容量が限定的、スキルのギャップやトレーニングの不足)を考え合わせると、より多くの従業員が分析 / BI プラットフォームをより頻繁に活用することを妨げている原因がより明確に見えます。目的を十分に果たせる既存のツールを使い慣れている従業員にとって、別の新しい、あるいは異なるツールに移行する必要性は見当たりません。このことは、組織の環境に現在存在していない新しいプラットフォームを使用するのにスキルが必要である場合にはなおさら当てはまります。

従業員による分析 / BI プラットフォームの使用を阻む主な課題



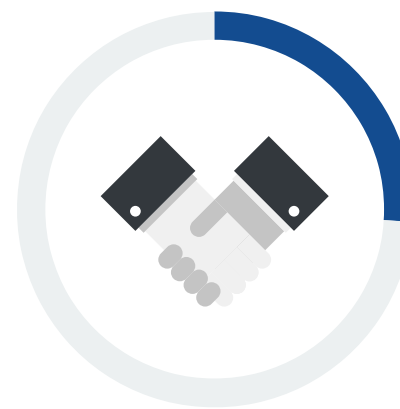
29%
使い慣れている他の適切なツールがある



29%
インフラストラクチャの容量が限定的



28%
スキルのギャップやトレーニングの不足



26%
特定のユースケースに対するサポートの欠如



24%
特定のデータ型のサポートの欠如



24%
望ましい特長や機能の欠如



22%
適切なツール インテグレーションの欠如



22%
アクセシビリティに関するオプションの欠如



22%
セキュリティやガバナンスの欠如



20%
費用

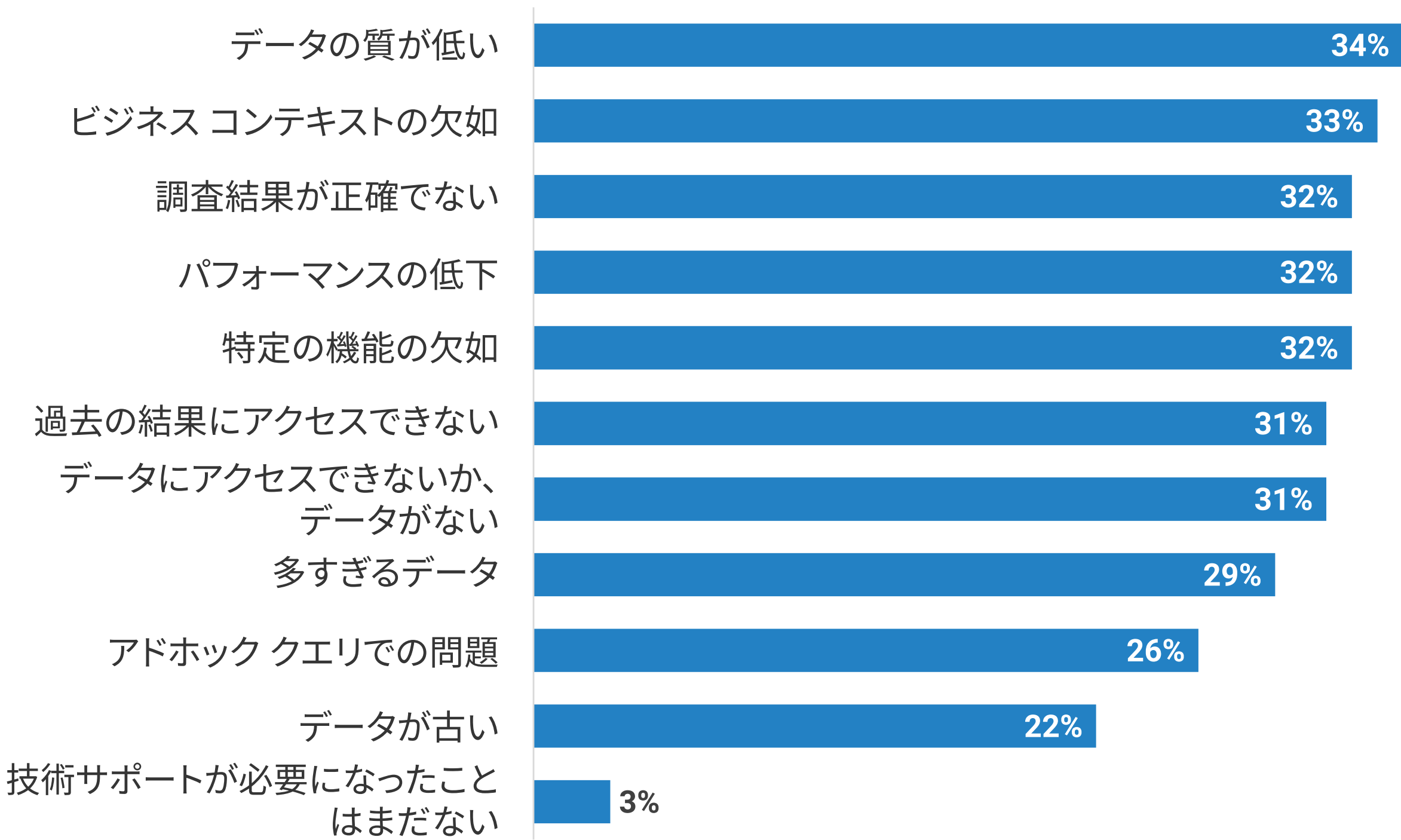


18%
データ分析情報に基づいて行動できない

さまざまな問題が、分析 / BI プラットフォームのサポート リクエストの引き金となっている

分析 / BI プラットフォームにおける問題は多岐にわたり、技術的問題から、より幅広い組織的問題に至るまで、さまざまな分野を網羅しています。かなりの数の課題は基礎となるデータの問題に起因していますが、注目すべき点として、主な問題として突出しているのはビジネス コンテキストの欠如です。ビジネス ユーザーがこれらのプラットフォームに期待を寄せる傾向が高まる中、ビジネス コンテキストがデータに埋め込まれていなければ、ビジネス ユーザーは特定のビジネス シナリオに有用な分析情報を引き出すのに苦勞することになります。従業員、特にビジネス上の役割を担う従業員は、未加工のデータを実用的な分析情報に変換しようと努力する中で、関連するビジネスの視点を持たず、疎外感といら立ちを感じています。こうした厄介な課題は従業員の生産性を低下させるだけでなく、不満や、エンゲージメントの低下につながります。

分析 / BI プラットフォームのサポート リクエストの引き金となっている課題

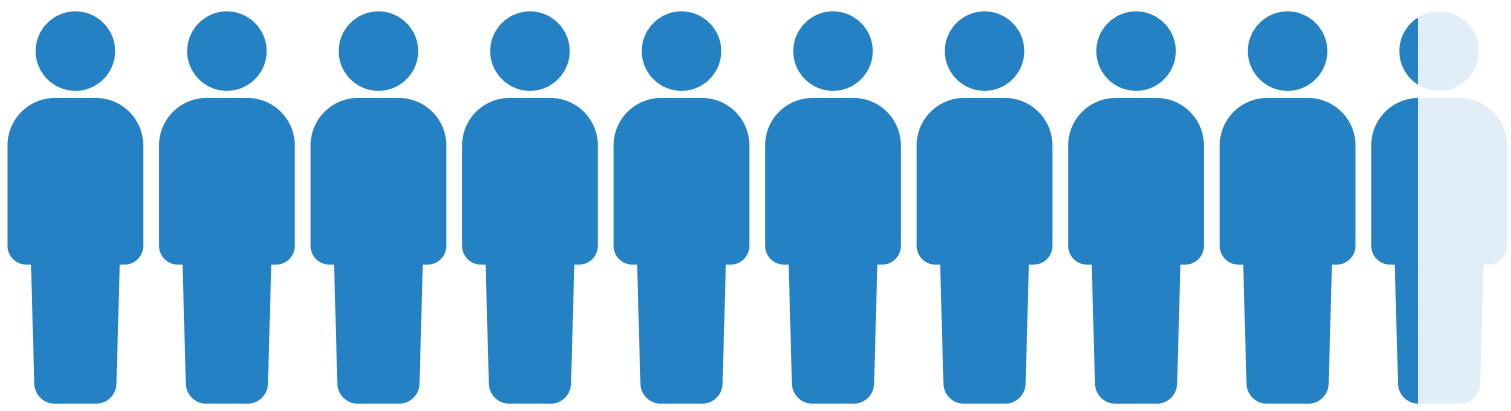
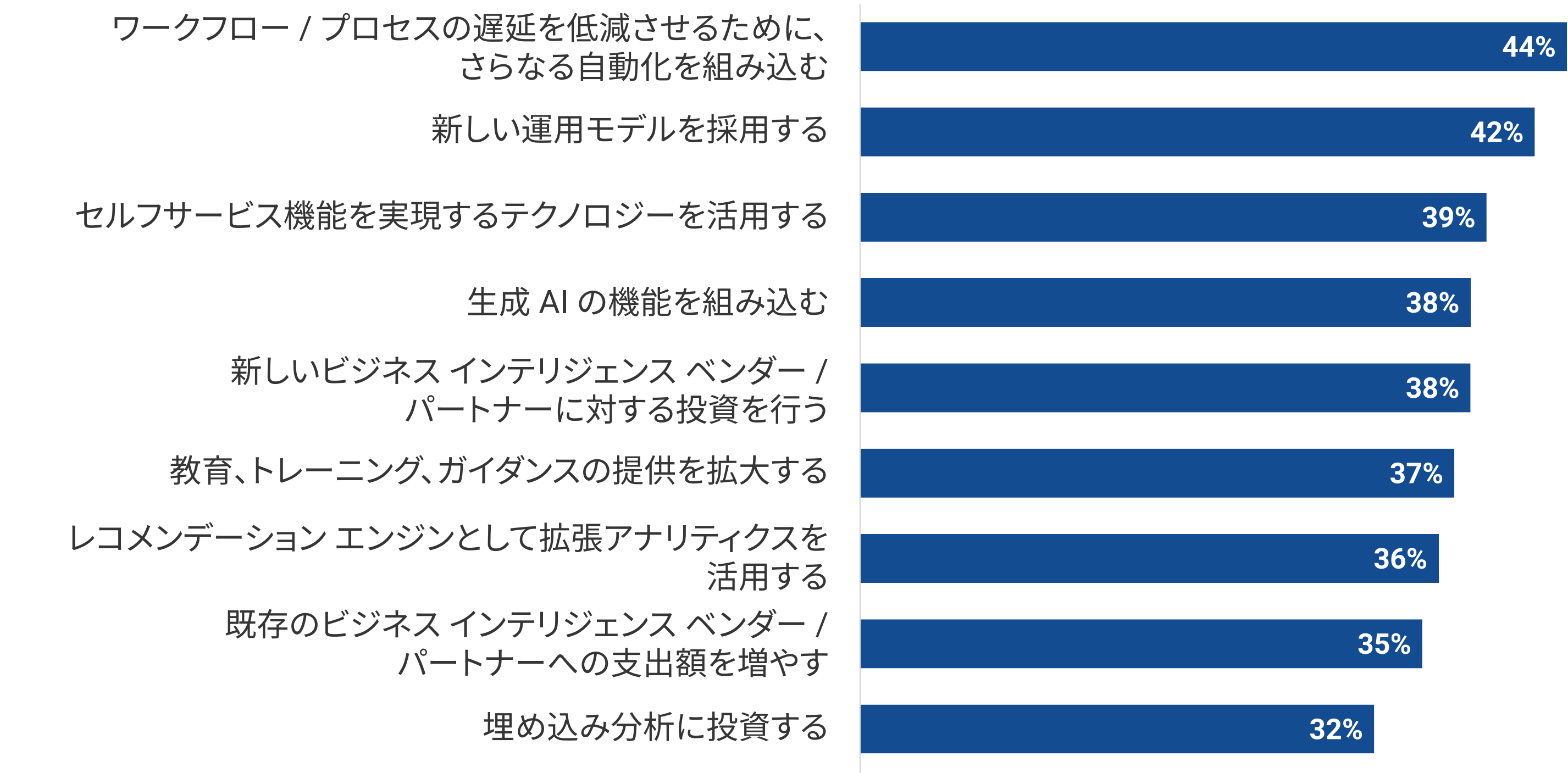


「かなりの数の課題は基礎となるデータの問題に起因していますが、**注目すべき点として、主な問題として突出しているのはビジネス コンテキストの欠如です。**」

組織は分析と BI を使いやすくするための戦略を導入し続けている

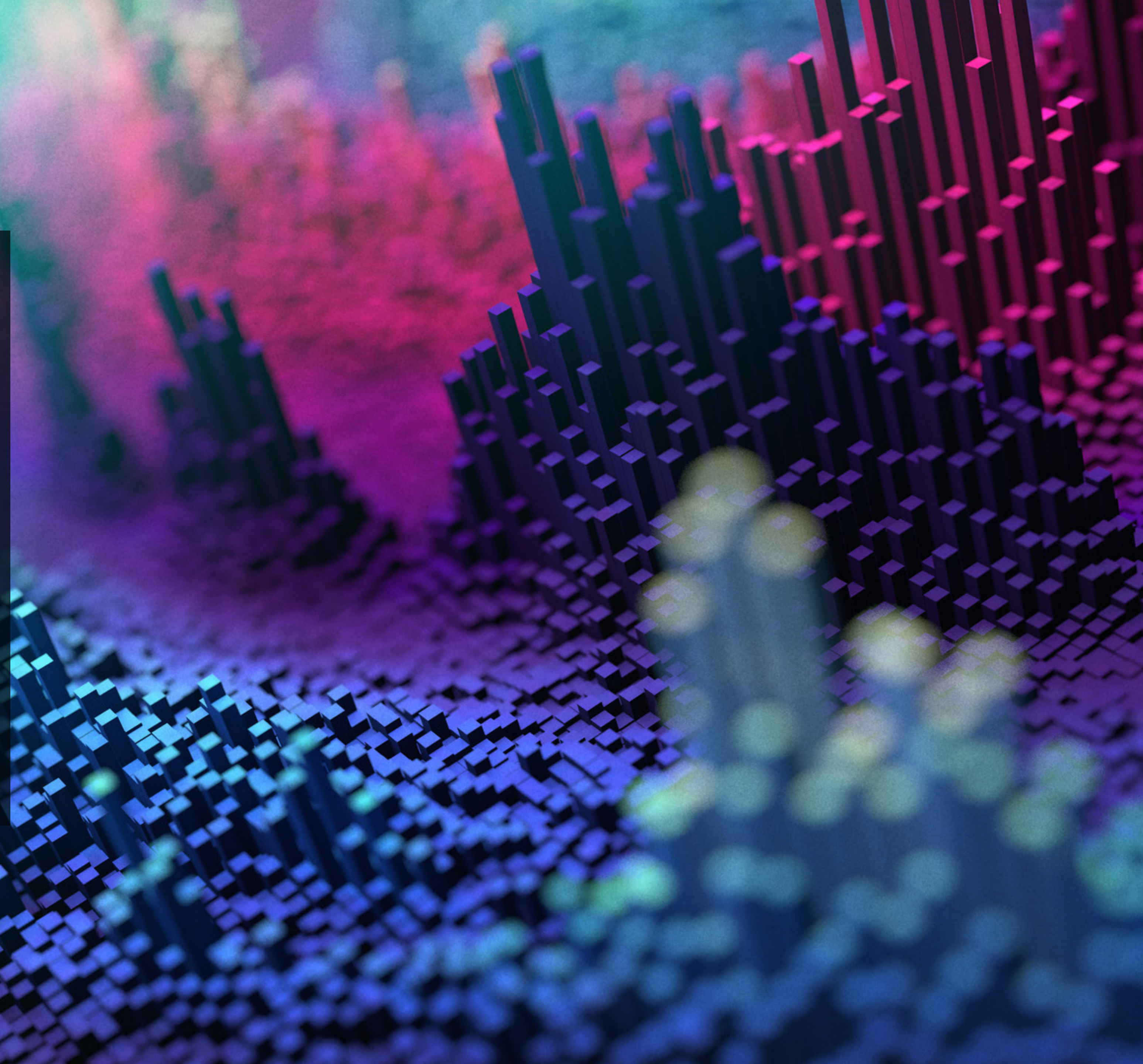
現在、組織の 99% は、既存および新規のユーザーが分析を活用できるようにするための計画を立てています。組織によってアプローチは異なりますが、採択されている措置の多くは、自動化、セルフサービス、AI を組み込んで、生産性と効率性を向上させることを重視したものです。実際、組織の 40% 近くが生成 AI の機能を組み込むとともに、レコメンデーション エンジンとして拡張アナリティクスを活用しようと計画しています。予測分析、AI、ML の進化により、エンドユーザーの導入の拡大を主な目的とした BI ソリューションの需要が高まっています。組織の 93% が分析と BI に AI および ML を統合した結果、エンドユーザーの導入が拡大したと回答していることから、これらのテクノロジーがビジネスの意思決定方法に革命をもたらしていることは明らかです。

従業員が分析と BI を使用できるようにするための措置



93%
分析と BI に AI および ML を統合した結果、**エンドユーザーの導入が拡大した**と回答した組織の割合

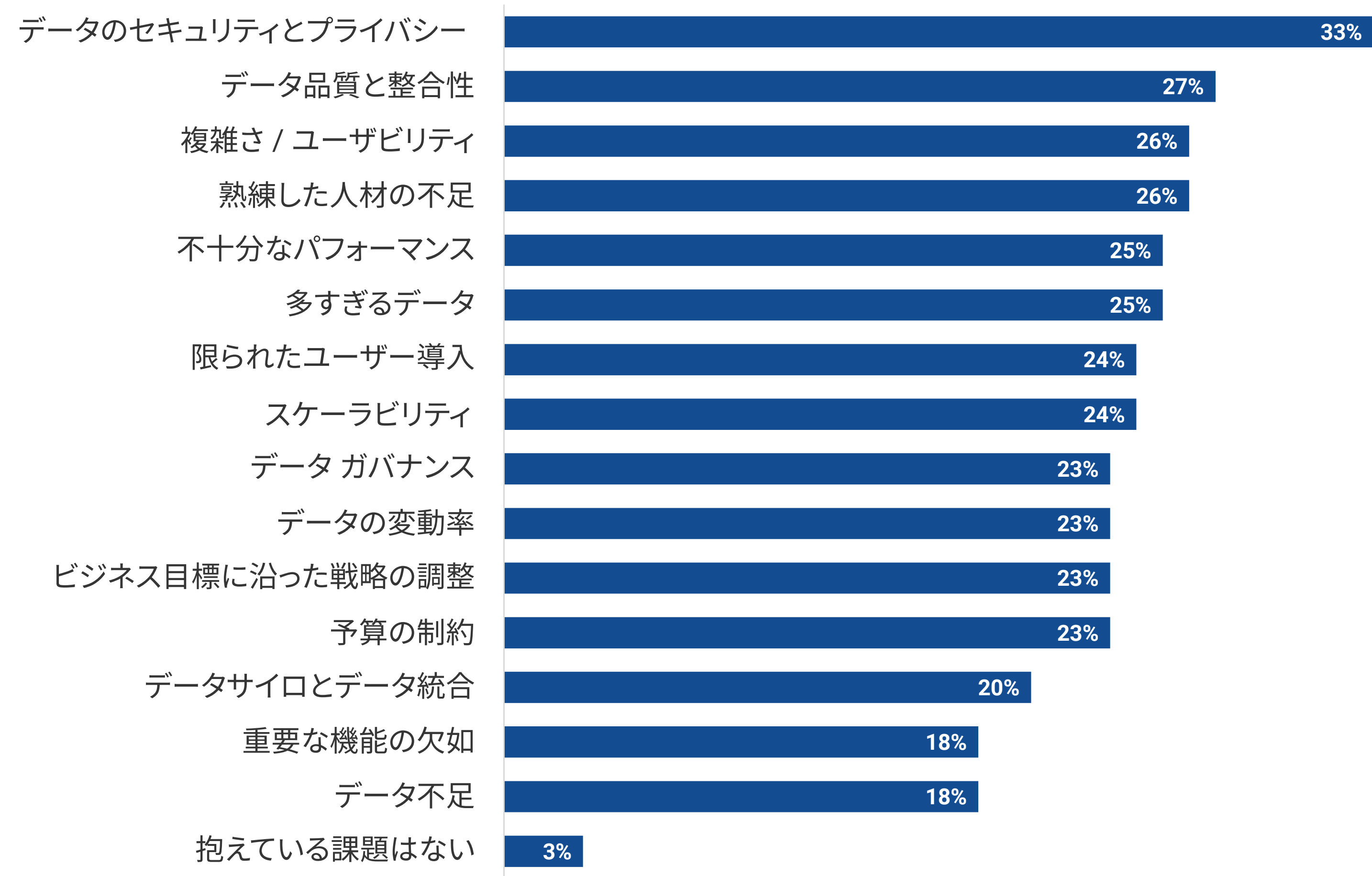
オーダーメイドの
ソリューションが投
資を促し、ベンダー
に対するロイヤル
ティを脅かしている



AI プラットフォームの多様な課題 が市場全体で明らかになっている

セキュリティを確保することは、特に AI を活用したシステムの安全保護対策において、組織にとって極めて重要です。AI テクノロジーへの依存度が増す中、組織は強力なセキュリティ対策を実装して、不正なアクセス、データ侵害、潜在的な脅威を防止する必要があります。正確で信頼できる結果にするためには、データ品質も最重要事項です。正確な結果になるかどうかは、エラー、矛盾、不正確さがまったくない高品質のデータを使用しているかどうかにより大きく依存します。データの整合性を確保すれば、組織は確信をもって情報に基づく意思決定を行い、成功とイノベーションを推進することになる有用な分析情報を引き出せます。AI プラットフォームは複雑になりがちです。特に、技術者以外のスタッフにとってはなおさら複雑でしょう。高度なアルゴリズム、ML モデル、データ処理手法をうまく使いこなすには、専門知識が必要です。技術的な基盤がなければ、AI テクノロジーは手強いものになり得ます。

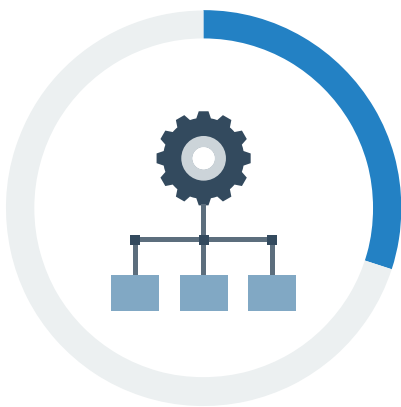
AI プラットフォームにおける主な課題



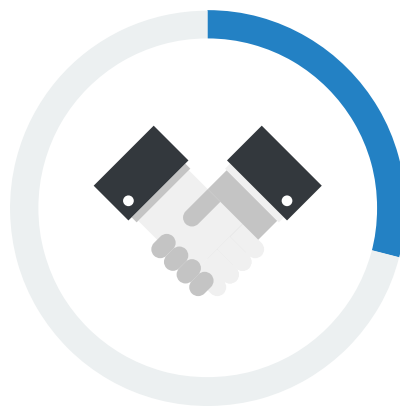
AI プラットフォームを頻繁に利用する妨げとなっている課題

調査したすべての課題の中で、組織全体にわたる課題はわずか 8% にすぎませんでした。AI プラットフォームについて、組織が多様な懸念事項を考慮しなければならないことが浮き彫りになりました。さまざまな課題にわたって共通しているテーマは、カスタマイズの重要性です。特定のステークホルダーのニーズとユースケースに応じて AI ツールをカスタマイズすれば、組織はユーザー エクスペリエンスとプラットフォームの全体的な有効性を大幅に向上させることができます。カスタマイズの形は、データサイエンティスト向けの独自の ML アルゴリズムの統合から、営業担当者向けの予測分析の埋め込みに至るまで多岐にわたります。

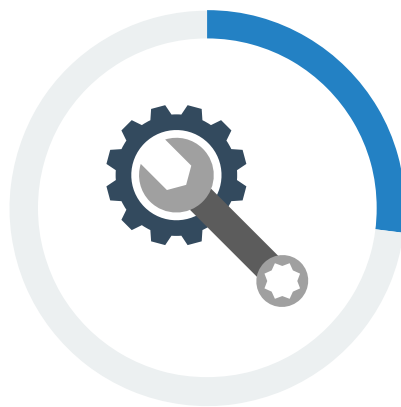
従業員による AI プラットフォームの使用を阻む主な課題



30%
インフラストラクチャの
容量が限定的



29%
特定のユースケースに
対するサポートの欠如



27%
適切なツール インテグ
レーションの欠如



27%
スキルのギャップや
トレーニングの不足



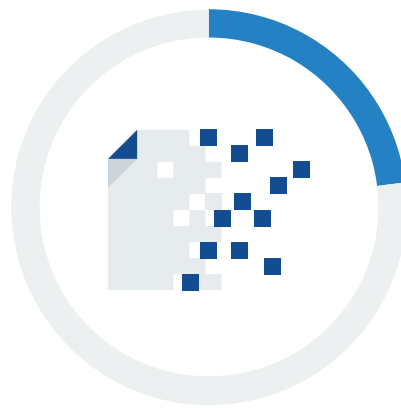
26%
データ分析情報に
基づいて行動できない



26%
望ましい特長や機能の
欠如



25%
セキュリティや
ガバナンスの欠如



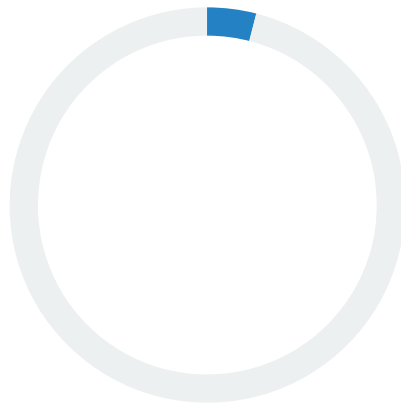
23%
特定のデータ型の
サポートの欠如



22%
アクセシビリティに関する
オプションの欠如



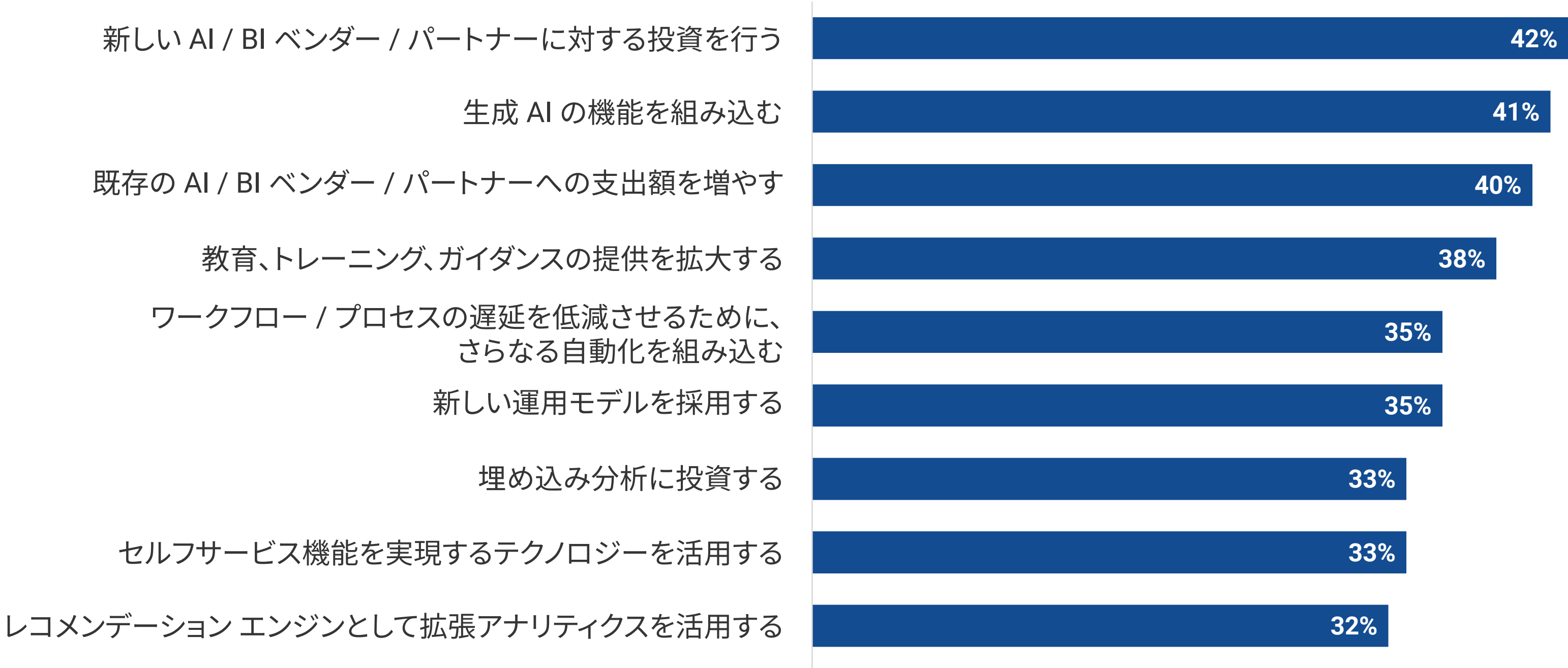
22%
費用



4%
抱えている課題
はない

「生成 AI を組み込んで高度な自動化と創造性を導入すると、ユーザーがより強力な直観的なツールを使用できるようになります。」

| エンドユーザーの間で AI の使用を促進するための措置



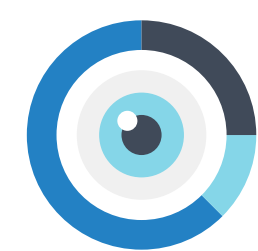
新しいベンダー、生成 AI、そして支出額の増加が、AI によるユーザー エンゲージメント強化の道を開く

新しいベンダーを採用し、生成 AI を組み込むとともに、既存ベンダーへの支出額を増やすと、AI サービスの拡大、高度な自動化、ユーザーへのサポートの強化が可能になります。ここで明確に把握できるのは、新しいベンダーは新鮮な視点と特化されたソリューションをもたらし、利用可能な AI サービスの幅を広げることです。さらに、生成 AI を組み込んで高度な自動化と創造性を導入することで、ユーザーがより強力な直観的なツールを使用できるようになります。また、既存ベンダーへの支出額を増やすことにより、サポートが強化され、継続的な改善が可能になるとともに、学習曲線を完全にリセットせずに最先端の機能を統合できます。

AI による組織への影響を引き続き促進している主なユースケース

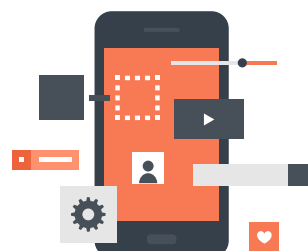
機能に関するユースケースと特定の AI ユースケースを組み合わせると、さまざまな市場での幅広い AI の応用が見えてきますが、最も影響力の大きい AI のユースケースの一つは、データ分析と予測モデリングです。これらのアセットの力を活用すれば、組織は運用効率を高められるだけでなく、データドリブンな意思決定を行えるようになり、急速に進化するビジネス状況にもかかわらず、アジリティを維持できます。したがって、データ分析と予測モデリングは AI ユースケースの領域で不可欠な基盤となり、企業は貴重な分析情報を明らかにし、イノベーションを推進して、持続可能な成長を実現できます。

組織にとって最も重要な AI ユースケース



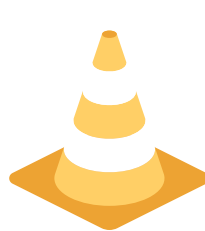
35%

データ分析と
予測モデリング



31%

製品開発と
イノベーション



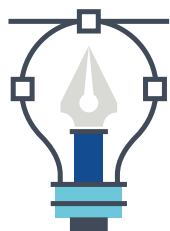
29%

リスク管理と
不正行為検出



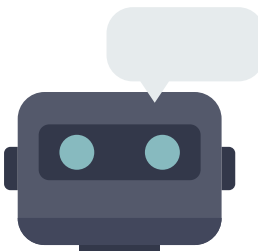
26%

セキュリティと
脅威の検出



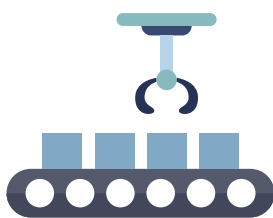
26%

顧客インサイトと
パーソナライズ



25%

カスタマー サポートと
chatbot



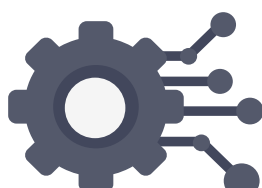
25%

サプライ チェーンの
最適化



23%

人事と人材管理



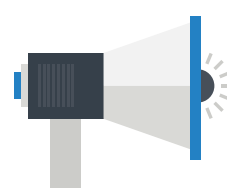
22%

プロセス自動化



19%

エネルギー効率



19%

販売とマーケティングの
最適化

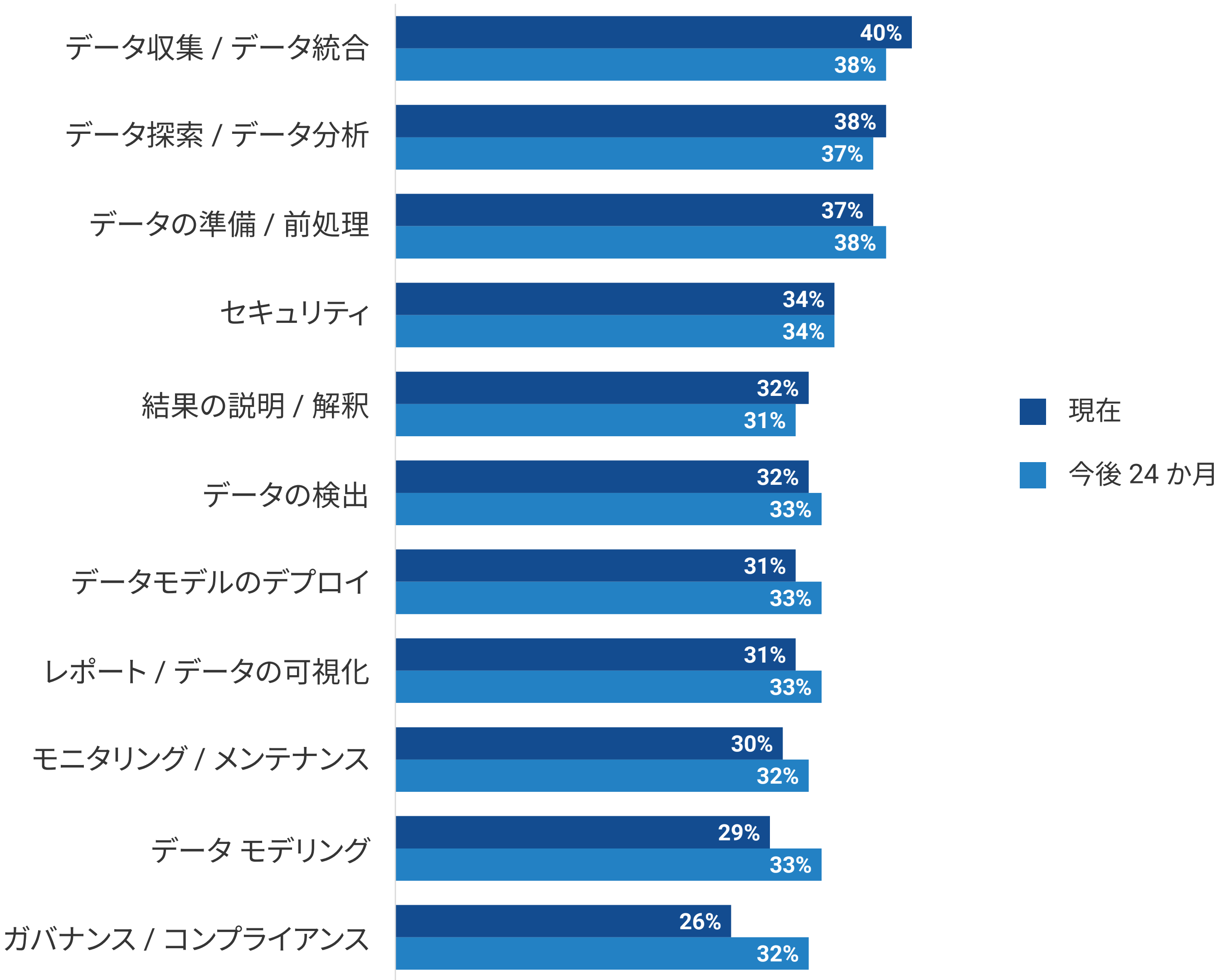


AI がデータとアナリ
ティクスのライフサイク
ルに革命を起こしてい
る一方、働き方は依然
として変わっていない

AI はデータおよび分析のライフサイクルで大きな役割を果たすようになってきている

生成され収集されるデータの量が増えている中、従来のデータ マネジメント手法と分析手法では対処しきれなくなっています。そこで救いの手となるのが AI です。AI には、データと分析のライフサイクルに伴うすべての側面に革命をもたらす可能性があります。その大きな理由は、組織の 90% が、AI によってさまざまな分析プロセスが大幅に改善されたと回答しているからです。データ収集（顧客のフィードバックの収集、ウェブサイト分析の追跡など）やデータ探索（パターンや傾向の特定など）、データの準備（分析に向けたデータのクリーニングや変換など）、さらに暗号化とアクセス制御によるデータ セキュリティの確保に至るまで、AI は実質的にすべてのデータ / 分析ソリューションで必要不可欠な機能になっています。

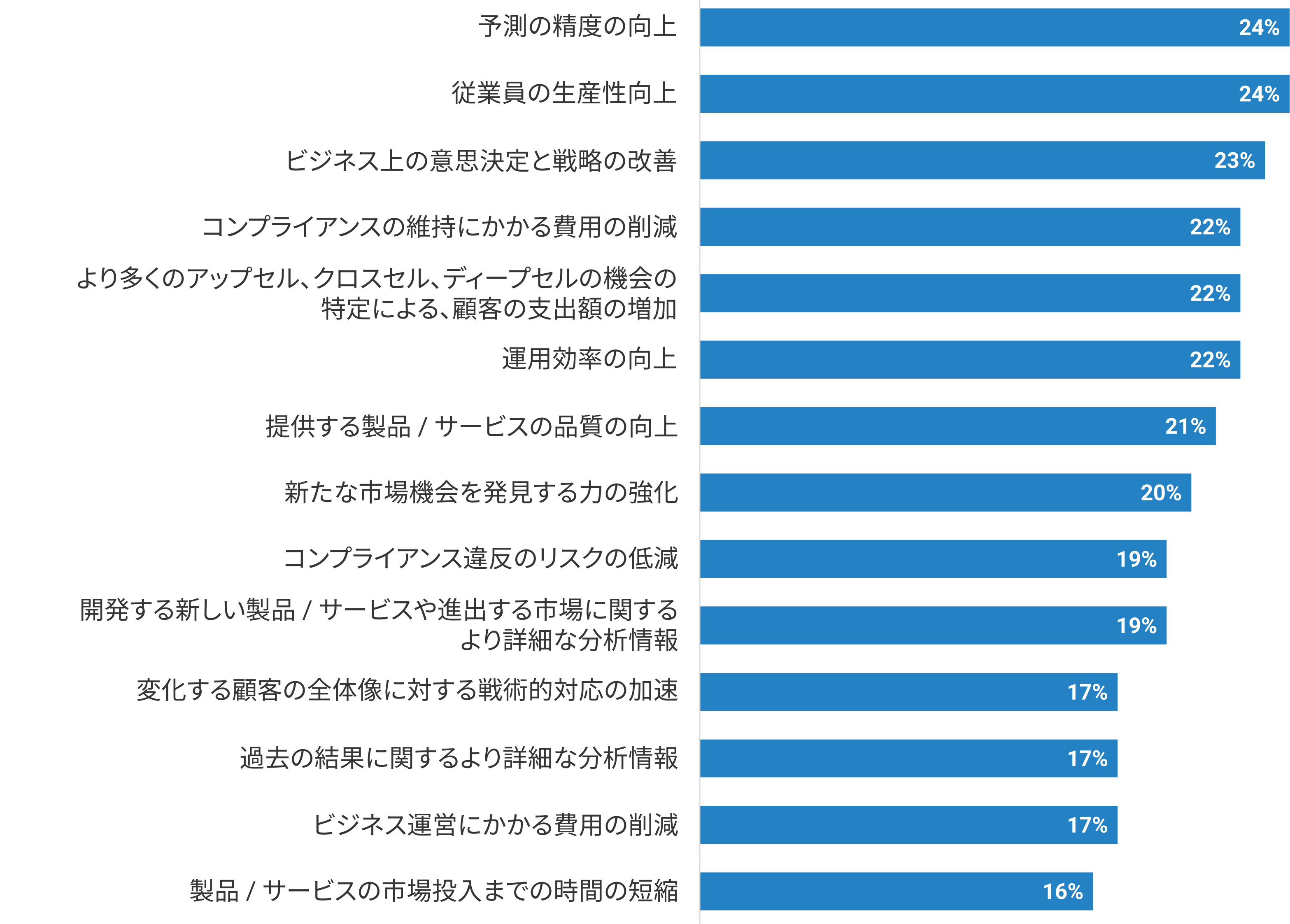
組織が AI または ML を現在使用している / 使用を予定している領域



精度と生産性の向上が、分析および BI に AI を統合する主なメリットの首位に

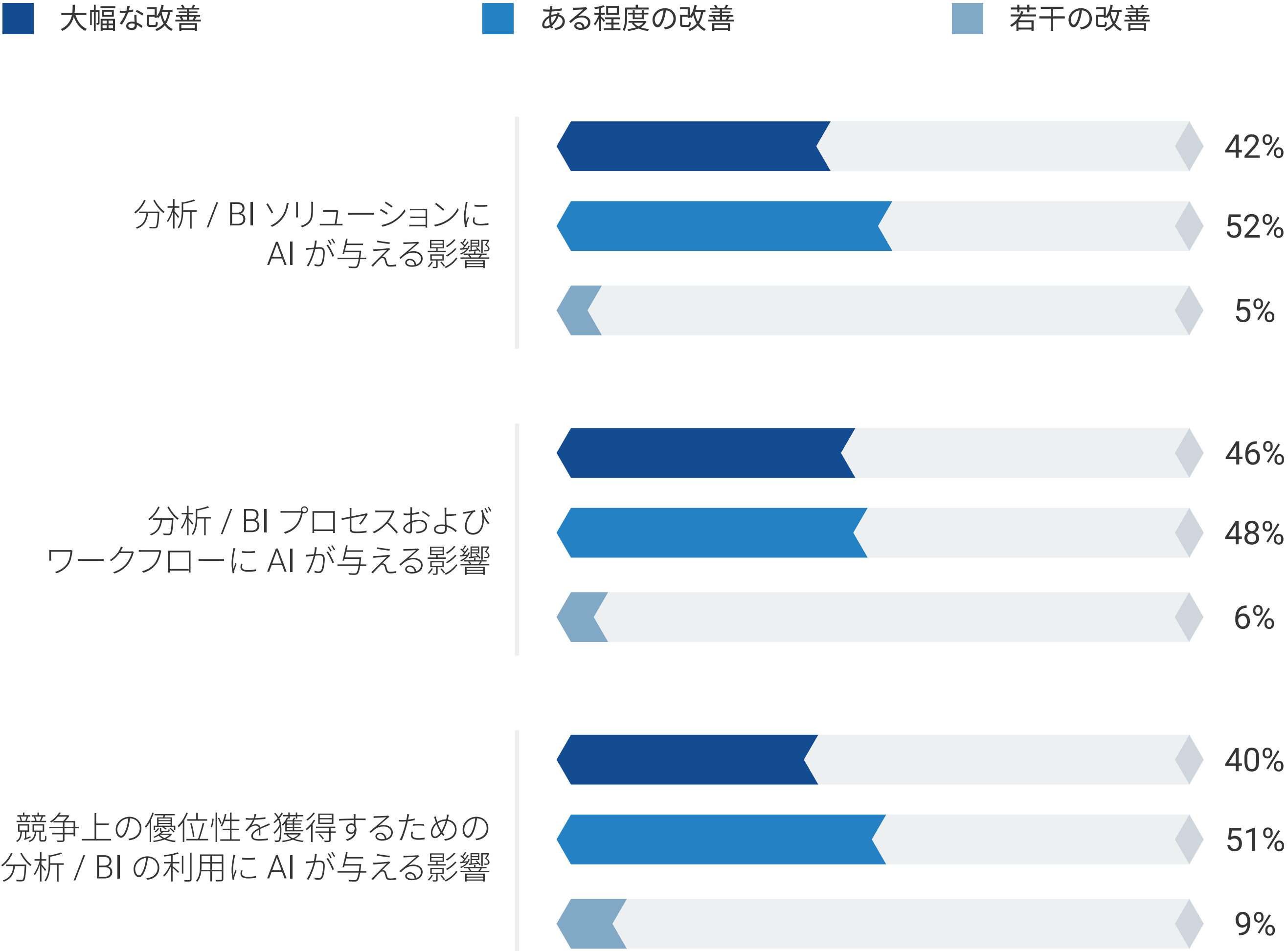
自社の分析および BI 機能に AI を統合したほぼすべての組織が、その成果を実現しています。その成果はデータ マネジメントと分析のプロセスの改善だけにとどまらず、予測の精度の向上、従業員の生産性向上、ビジネス上の意思決定と戦略の改善といった具体的なメリットをもたらしています。組織は分析および BI オペレーションのパフォーマンスと有効性を抜本的に変革するために、ますます AI を重視するようになっていきます。事実、組織の 91% が分析と BI で AI を活用する他のさまざまな方法を積極的に追及しています。

| 分析および BI プラットフォームで AI を使用する主なメリット



AI が生産性を向上させて ワークフローを強化するこ とにより、企業が競争力を 獲得可能に

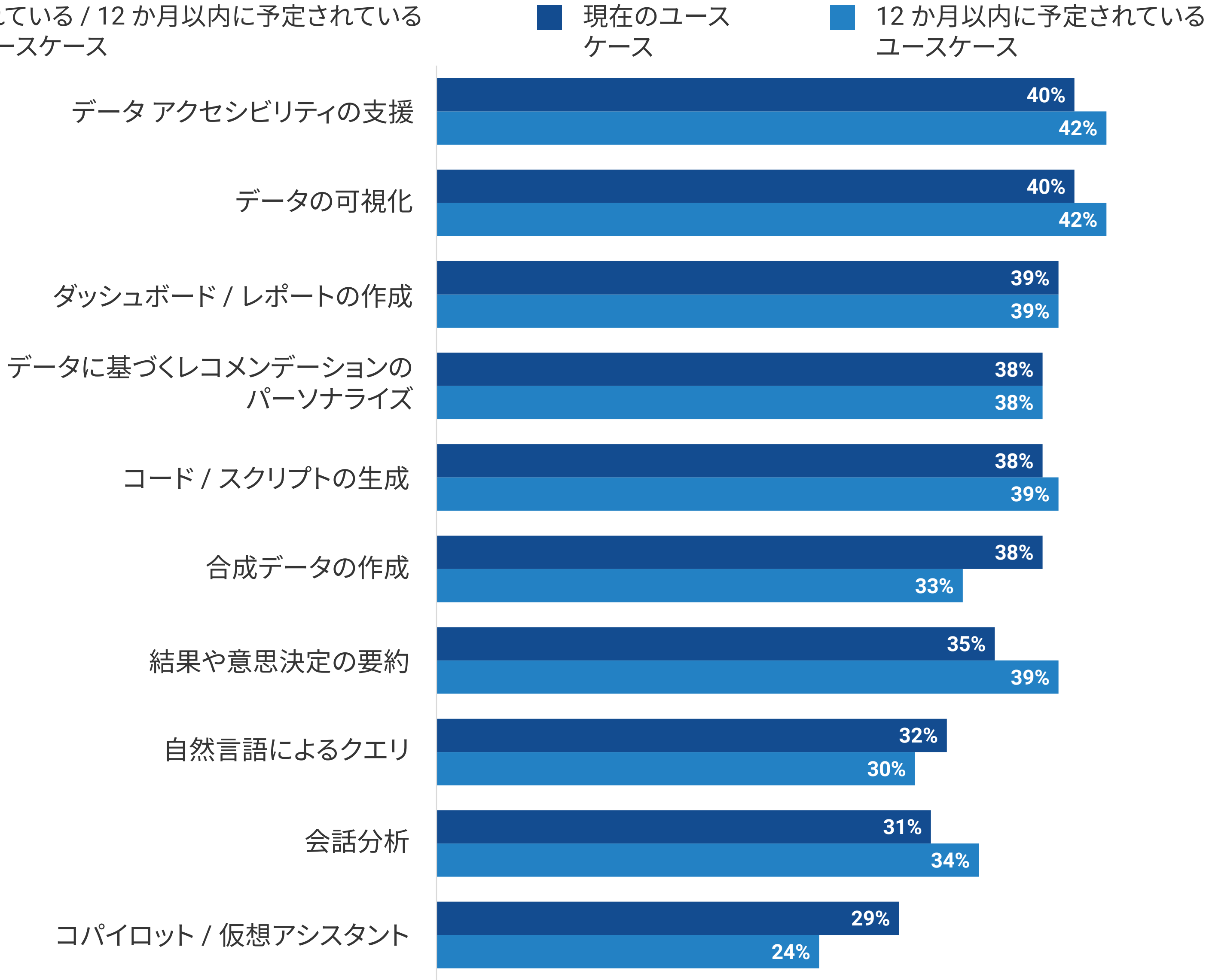
AI を導入して分析および BI ソリューションを効果的に活用することで、生産性を大幅に向上させられると見込んでいる組織は、94% という圧倒的な割合を占めています。同様に、組織の 94% は、AI によって分析 / BI プロセスおよびワークフローのスピードと効率性がある程度、または大幅に向上すると期待しています。エラーが起こりやすい日常的な単純作業を AI を使用して自動化することにより、組織は戦略的な意思決定に注力し、競合他社を常にリードし続けることができます。以上が、組織の 91% が、AI によって市場で競争上の優位性を獲得するために分析 / BI を活用する力がある程度、または大幅に強化されると期待している大きな理由です。



リスクを軽減して有益
性を高める必要性が
増している中、生成
AI が変革をもたらし
ている



現在使用されている / 12 か月以内に予定されている
生成 AI のユースケース



分析および BI で 広がっている生成 AI の ユースケース

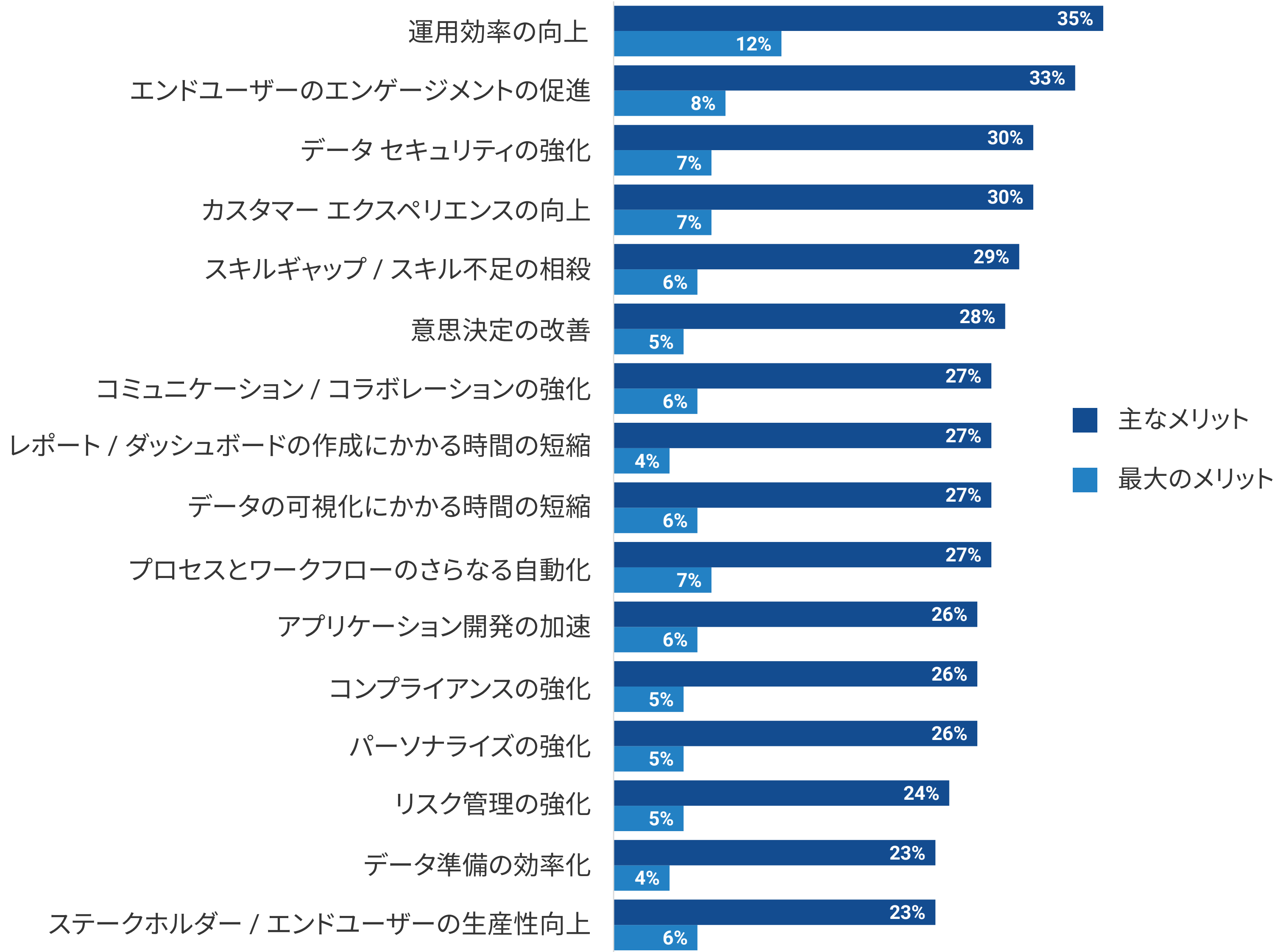
分析および BI の領域で生成 AI の導入が急増し、このテクノロジーがデータおよび分析のライフサイクル全体に関与する事実上すべてのステークホルダーに影響すると見込まれています。これらのステークホルダーには、データを探索して可視化するデータ / ビジネスアナリスト、モデルとアルゴリズムを構築するデータサイエンティスト、データインフラストラクチャを管理する IT プロフェッショナル、分析情報に基づいて重要な意思決定を行うビジネスリーダーが含まれます。さらに、AI は進化して成熟し続けることから、日々のビジネス運営と意思決定プロセスに AI は不可欠な要素となるでしょう。したがって、組織は自社の分析機能を強化してイノベーションを促進する貴重なツールとして AI を採用する必要があります。

「組織の 94% が、生成 AI は分析 / BI ソリューションを利用するエンドユーザーの数に影響を与えると確信しています。」

組織が生成 AI を分析および BI に適用すると、豊富なメリットがもたらされる

生成 AI にはコンテンツの作成、分析情報の生成、意思決定プロセスの最適化を自律的に行う機能が備わっていることから、このテクノロジーは運用効率と生産性をこれまでにない高いレベルに引き上げようとしています。さまざまな業界では長年、データアクセスと分析を誰もが利用できるようにすることを目標としてきましたが、多くの組織は生成 AI がついにこの目標を実現するテクノロジーであると回答しています。自動化に限らず、AI がパーソナライズと動的なエクスペリエンスによってエンドユーザーのエンゲージメントを深める可能性により、組織がデータと分析の力を活用する方法におけるパラダイム シフトが期待できます。事実、組織の 94% が、生成 AI は分析 / BI ソリューションを利用するエンドユーザーの数に影響を与えると確信しています。

分析および BI に生成 AI を使用する主な / 最大のメリット



Google Cloud

Google Cloud のビジネス インテリジェンス プラットフォームである Looker は、データとチャットすることを可能にします。組織は信頼できる指標を使ってカスタム アプリケーションを構築したり、Looker モデリングを既存の環境に統合したりするために、Looker のセルフサービスと管理された BI に目を向けています。Looker は、データ エンジニアリングの効率化、そして真の意味でのビジネス変革という結果をもたらします。Google Cloud のビジネス インテリジェンス プラットフォーム Looker の詳細をご確認ください。

詳細

ENTERPRISE STRATEGY GROUP について

TechTarget の Enterprise Strategy Group は、テクノロジー分析、リサーチ、戦略を総合的に扱う企業で、マーケット インテリジェンス、行動につながるインサイト、市場開拓のためのコンテンツ サービスをグローバル テクノロジー コミュニティに提供しています。

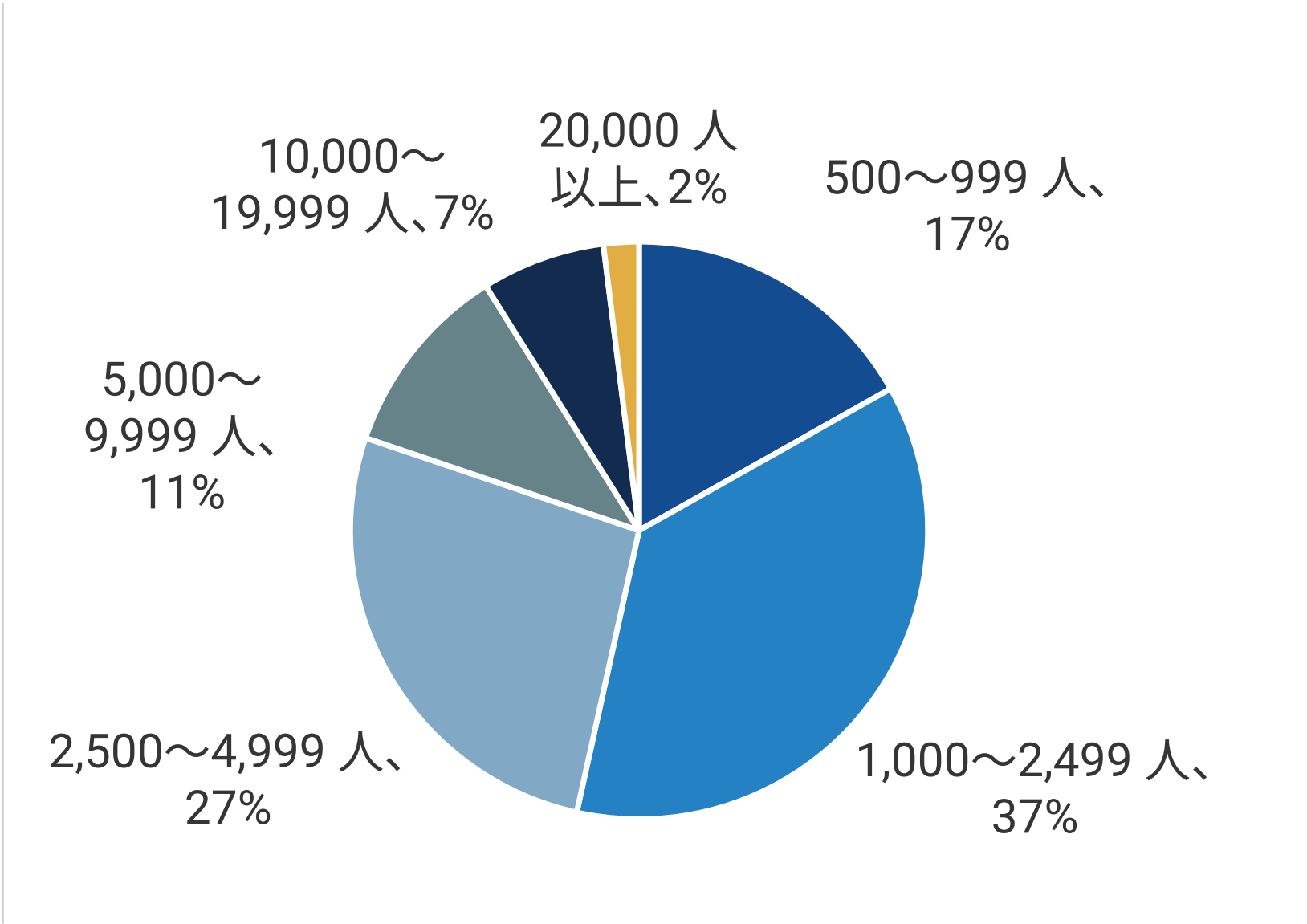


調査の手法と調査対象ユーザーの属性

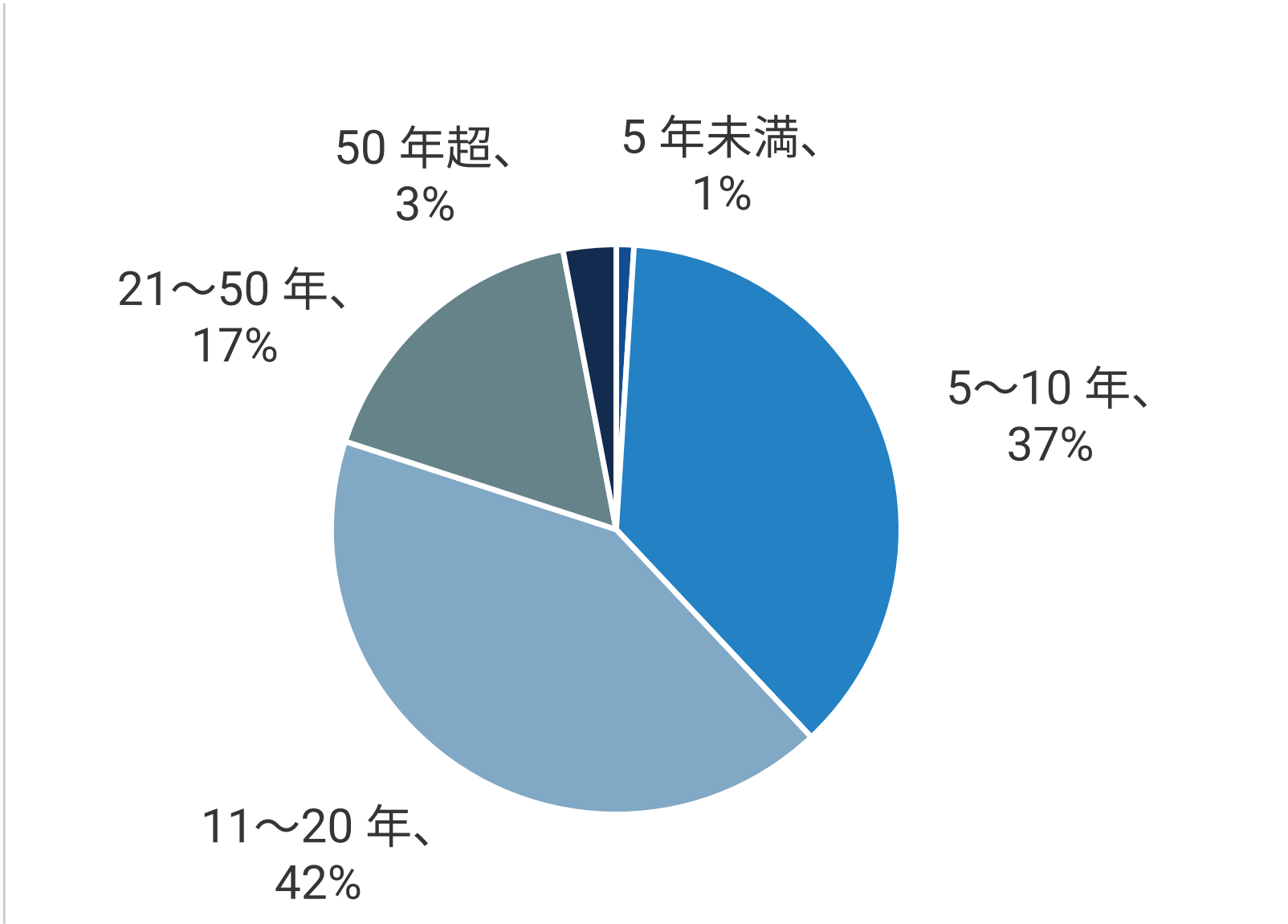
Enterprise Strategy Group はこのレポートのデータを収集するために、2023 年 10 月 31 日から 2023 年 11 月 9 日にかけて、北米（米国とカナダ）の民間および公共部門の組織のデータ / IT プロフェッショナルを対象に包括的なオンライン アンケート調査を実施しました。このアンケート調査は、分析 / ビジネス インテリジェンス ソリューションの評価、購入、管理、構築に関与している、あるいはこれらの業務に責任を持つプロフェッショナルを対象としています。このアンケート調査を完了した回答者すべてに、賞金または同等の賞品という形でインセンティブが提供されました。

条件を満たしていない回答者をフィルタで除外し、重複する回答を除去して、残りの完了した回答を（複数の条件で）スクリーニングしてデータの整合性を確保した結果、最終的に合計 375 人の IT およびデータ プロフェッショナルのサンプルが残りました。

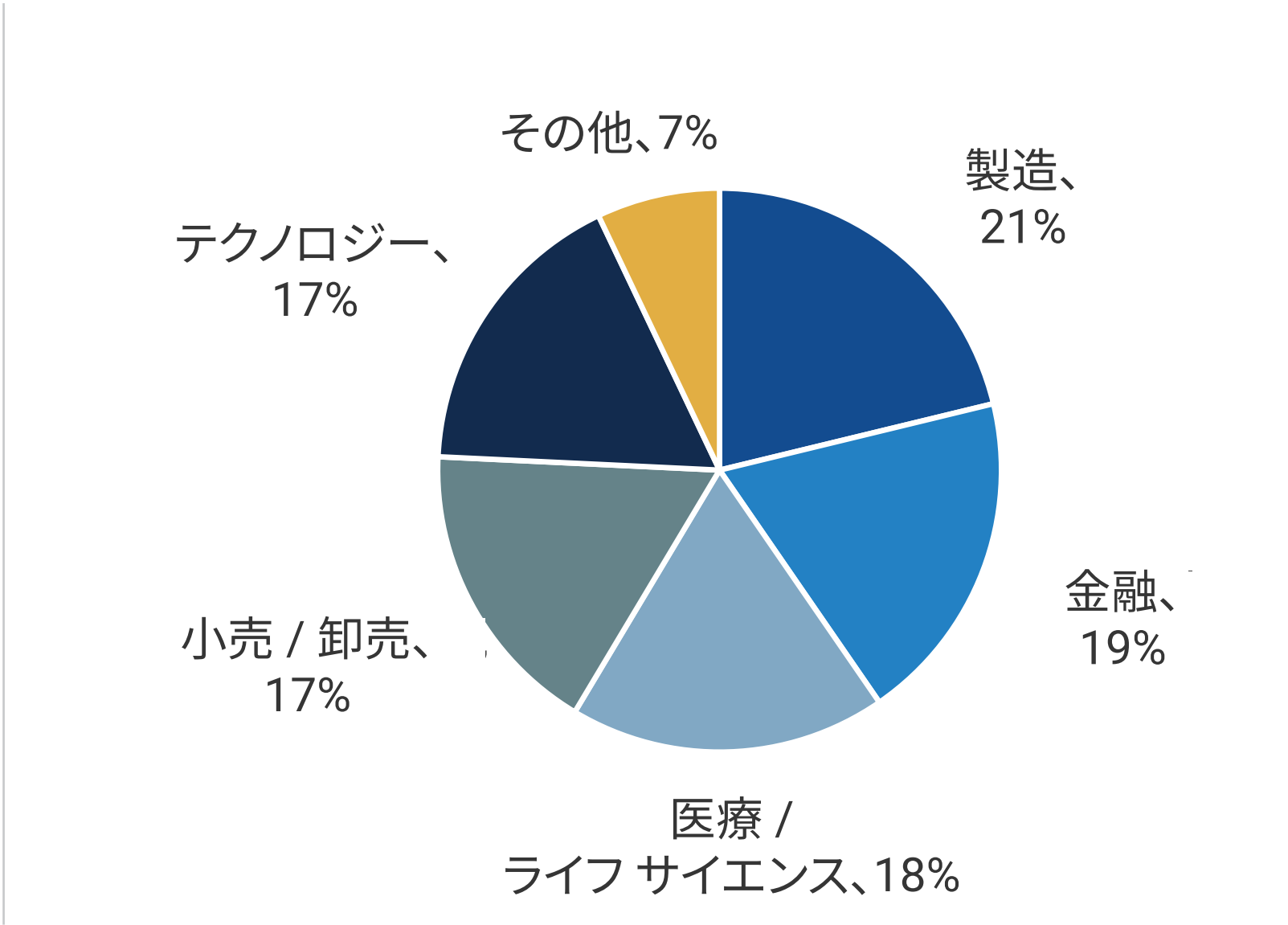
従業員数別の回答者内訳



企業の操業年数別の回答者内訳



業界別の回答者内訳



すべてのプロダクト名、ロゴ、ブランド、および商標は、それぞれの所有者に帰属します。本出版物に含まれている情報は、TechTarget, Inc. が信頼できると判断した情報源から取得したものです。その信頼性を TechTarget, Inc. が保証するものではありません。本出版物には TechTarget, Inc. の見解が含まれている場合がありますが、その見解は今後変更される場合があります。本出版物には、現在入手可能な情報に照らした TechTarget, Inc. の仮定と期待を表す予測、予想、およびその他の予測的な記述が含まれる場合があります。これらの予測は業界の動向に基づいており、変動要因や不確実性を含んでいます。そのため、TechTarget, Inc. は、本出版物に含まれる特定の予測、予想、または予測的記述の正確性に関して、いかなる保証も行いません。

本出版物の著作権は TechTarget, Inc. に帰属します。物理的な手段、電子的な手段、またはそれ以外の手段であるかを問わず、TechTarget, Inc. の明示的な承諾を得ることなく本出版物の一部または全部を複製し、本出版物を受領する権限のない人物に対して転載または再配布を行うことはアメリカ合衆国著作権法の違反とみなされ、民事上の損害賠償または刑事訴追の対象となります。ご不明な点がある場合は、Client Relations (cr@esg-global.com) までお問い合わせください。



Enterprise Strategy Group は、テクノロジー分析、リサーチ、戦略を総合的に扱う企業で、マーケット インテリジェンス、行動につながるインサイト、市場開拓のためのコンテンツ サービスをグローバル テクノロジー コミュニティに提供しています。

© 2024 TechTarget, Inc. All Rights Reserved.